

7th FEFCO

Forest Ecosystem Function Colloquium (FEFCO) は、地域や地球全体のレベルで森林生態系の機能とその持続的活用法を統合的に理解することを目的とし、研究者間の学術交流を推進します。

定例会として第7回森林生態系機能コロキウム (FEFCO)を開催します。どなたでも参加できます。京都大学農学研究科熱帯林環境学研究室がホストを務めます。

7th FEFCO
2014/5/15 16:00 - 17:30
Faculty of Agriculture Main Building, S174

定例会
北島薫・金子隆之
(熱帯林環境学研究室)

熱帯林の機能生態学

1. 北島薫
熱帯自然林における
樹木の機能形質
の多様性

要旨：熱帯林は生物多様性の宝庫である、というのは誰もが認識している。しかし、群集における生物種の局所的な多様性が高いほど、生態学的機能の多様性が高いかどうかについては議論が続いている。機能的多様性は、個々の植物が生態学的なステージにおいて環境や他の生物との相互関係を持つ中で進化してきたと考えられる。これまでの自身の研究で調査してきた機能的多様性の側面についてまず紹介させていただく。一方で、熱帯では多様性の非常に高い自然林が多様性の低い劣化林や2次林、さらに、極端に低い植林地等に変わっていく過程が大規模に進行中である。さらに、地球レベルでの気候変動が熱帯自然林にどのような影響を及ぼすかにしても、未知の要素が多い。このような状況において、今後、どのように熱帯樹と環境の相互関係を理解していくことが大切だろうか？参加の皆さんのご意見を広く求めたいと思う。

2. 金子隆之
早成樹林業の炭素
固定能と持続性評
価および冷温帯林
の長期大面積調査
について

要旨：インドネシアなど東南アジア熱帯ではパルプ用材のアカシアの産業植林地が拡大している。6年前後で伐採を繰り返す超短伐期施業が森林立地にどのようなインパクトを与えるかは未だ明らかではない。早成樹林業の炭素固定能と林床に供給される有機物の蓄積量が施業方法によって、どのように変化するかをシミュレーションにより予測し、持続性の評価を試みる。もう一つの話題は京都大学芦生研究林で行われている16haの長期森林動態試験地の20年間の森林の変化について紹介する。